

委員会視察報告書

2026（令和 8）年 8 月 6 日

能勢町議会
議長 平田 要 様

総務民生常任委員会
委員長 難波希美子

フィットネスリハ ヴィエントの視察報告

視察日	2026(令和 8)年 6 月 25 日(木) 11:15～12:30
視察先	フィットネスリハ ヴィエント 介護保険事業所
参加者	委員 6 名(難波希美子、川口省子、岡本ひとし、中西顕治、八木修、井上加奈子) 議長（平田要） 議会事務局（畑中康英）
対応者	フィットネスリハ ヴィエント 代表取締役 橋本謙司
目 的	介護予防サービス事業所の先進的な取組みを学ぶ

● 経緯 ●

総務民生常任委員会では、「能勢町の介護制度利用と課題」をテーマに継続して意見交換を行い、介護予防や地域包括ケアのあり方について調査・研究を進めている。

調査・研究を進める中で、介護予防への参加には男女差や地域性が見られ、特に高齢男性の地域活動への参加促進が課題であるとの認識を委員会内で共有した。

こうした課題に対する先進的な取組みを学ぶため、令和 8 年 6 月 25 日、豊能町の「フィットネスリハ ヴィエント」を視察し、施設概要や運営状況について説明を受けるとともに、施設内を見学した。

● 施設の概要 ●

〔名称〕	フィットネスリハ ヴィエント 介護保険事業所 指定地域密着型サービス事業所・指定地域密着型介護予防サービス事業所
〔所在〕	大阪府豊能郡豊能町野間口 150-1
〔開業〕	2023（令和 5）年 4 月 1 日
〔エリア〕	豊能町、箕面市(箕面市在住者は介護予防サービスのみ)
〔休み〕	土日祝・年末年始（12/29-1/3）
〔時間〕	午前の部 9:00-12:00、午後の部 13:00-16:00
〔定員〕	10 名
〔当身体制〕	生活相談員 1 名、介護職 2 名、管理者・理学療法士 1 名、運転手 1 名
〔対象者〕	要介護 1-5・要支援 1-2・総合事業
〔運営方針〕	① 利用者様の意思および人格を尊重する。 ② 利用者様の能力に応じ、可能な限り自立した日常生活が営めるように支援する。 ③ 利用者様の視点に立ったサービスを提供する
〔設立経緯〕	2019（平成 31）年 3 月 豊能町立野間口老人憩いの家が閉鎖 2022（令和 4）年 10 月 施設の無償貸与事業に選定される 2023（令和 5）年 1 月～ 10 年間の無償貸与契約を締結 2023（令和 5）年 4 月 オープン

● 施設の特徴 ●

- ・本格的なトレーニングマシンを導入し、積極的なトレーニング参加意識を高めている。測定データは介護支援専門員（ケアマネ）と共有し、プランに反映している。
- ・トレーニングのスケジュールは、バイタルチェック→体操→トレーニング→ストレッチ→プロテイン摂取という順序で行い、その間体調等に合わせてマッサージ機や岩盤浴等でリラクゼーションをしている。
- ・段差のある実生活を想定し、施設内には意図的に段差を設置している。
- ・利用者は 68 名で、男女比は 34 名ずつと同数であった。
介護度は、要支援 1・2 及び総合事業対象者が全体の約 7 割を占めており、比較的軽度の利用者が多い。
また、80 歳代が最も多く、利用頻度は週 1～2 回が中心であった。現在の稼働率は約 93%で、待機者もいる状況との説明を受けた。

● 委員会としての所見 ●

1. 「ヴィエント」視察の評価と気づき

介護予防事業は女性の参加割合が高い傾向にある一方、本施設では「介護施設」ではなく「フィットネス」という印象を前面に出すことで、高齢男性も利用しやすい環境づくりが図られていた。

このような施設の雰囲気づくりは、参加意欲の向上につながる可能性があると感じた。

2. 能勢町における需要と課題

一方で、能勢町では農業に従事する高齢者も多く、地域性や生活習慣は豊能町とは異なる。そのため、本施設の取組みをそのまま導入するのではなく、本町の実情に応じた介護予防施策や交流の場について検討していく必要がある。

能勢町でも日生中央等のリハビリ施設に通う層があり、潜在需要は存在すると思われる。

3. 今後の方向性

高齢男性の外出・参加を促す施策が必要と考える。

男性の外歩ききっかけとなる趣味嗜好の選択肢（チャンネル）の多様化が鍵となると感じる。

特に麻雀や将棋などは、他自治体でも実施している様に脳トレ効果も高く、不要品の寄付や社協・ボランティアと連携することで、行政主導だけでなく地域の居場所づくりとして、まずは公共施設等で「いきいき麻雀」などの集いの場を試験運用し、徐々に各地区へ展開していくことが有効であると考ええる。



橋本代表より、説明を聞く
(右は段差のある玄関)



フィットネスルーム
(本格的なマシーンが揃っている)